

2025.7.7 第38回 都市美対策審議会 政策検討部会資料

旧市庁舎街区活用事業における 外構計画について（報告）

事業者

代表企業

三井不動産株式会社

構成員

鹿島建設株式会社

京浜急行電鉄株式会社

第一生命保険株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社ディー・エヌ・エー

東急株式会社

株式会社関内ホテルマネジメント

目次

①. ランドスケープの考え方・全体像 ————— 3~8

②. 個々の空間におけるデザインのあり方 ————— 10~20

(1) くすのきモールまわり

(2) 駅前広場まわり

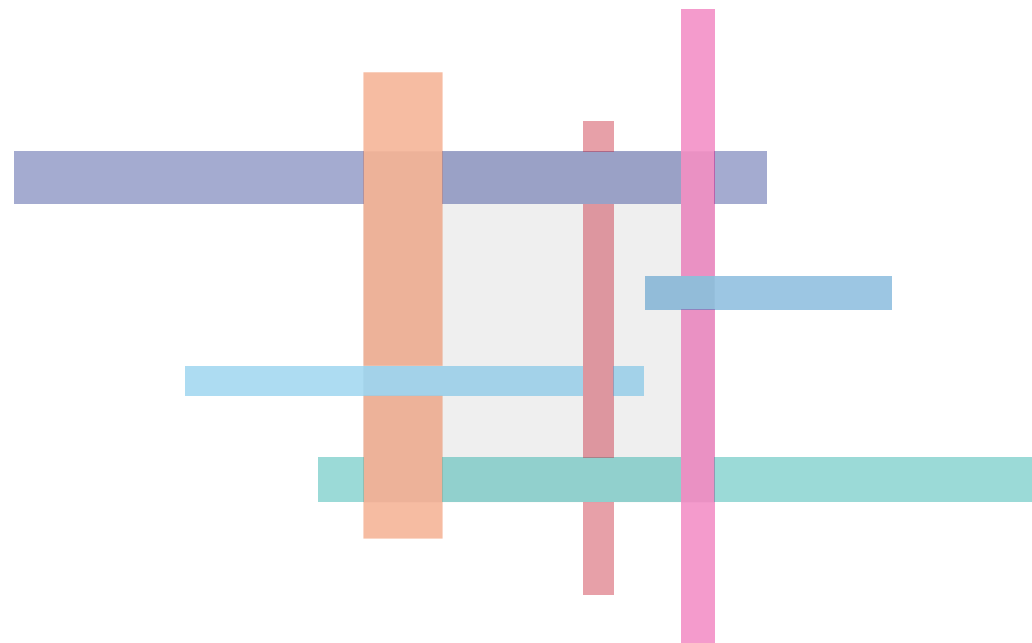
(3) 尾上町通りまわり

(4) 継承の道まわり

③. 広場のマネジメント・使い方 ————— 22~23

Interweaving Landscape

モノとコトが多様に織り成す、ヒトが主役となる基盤づくり



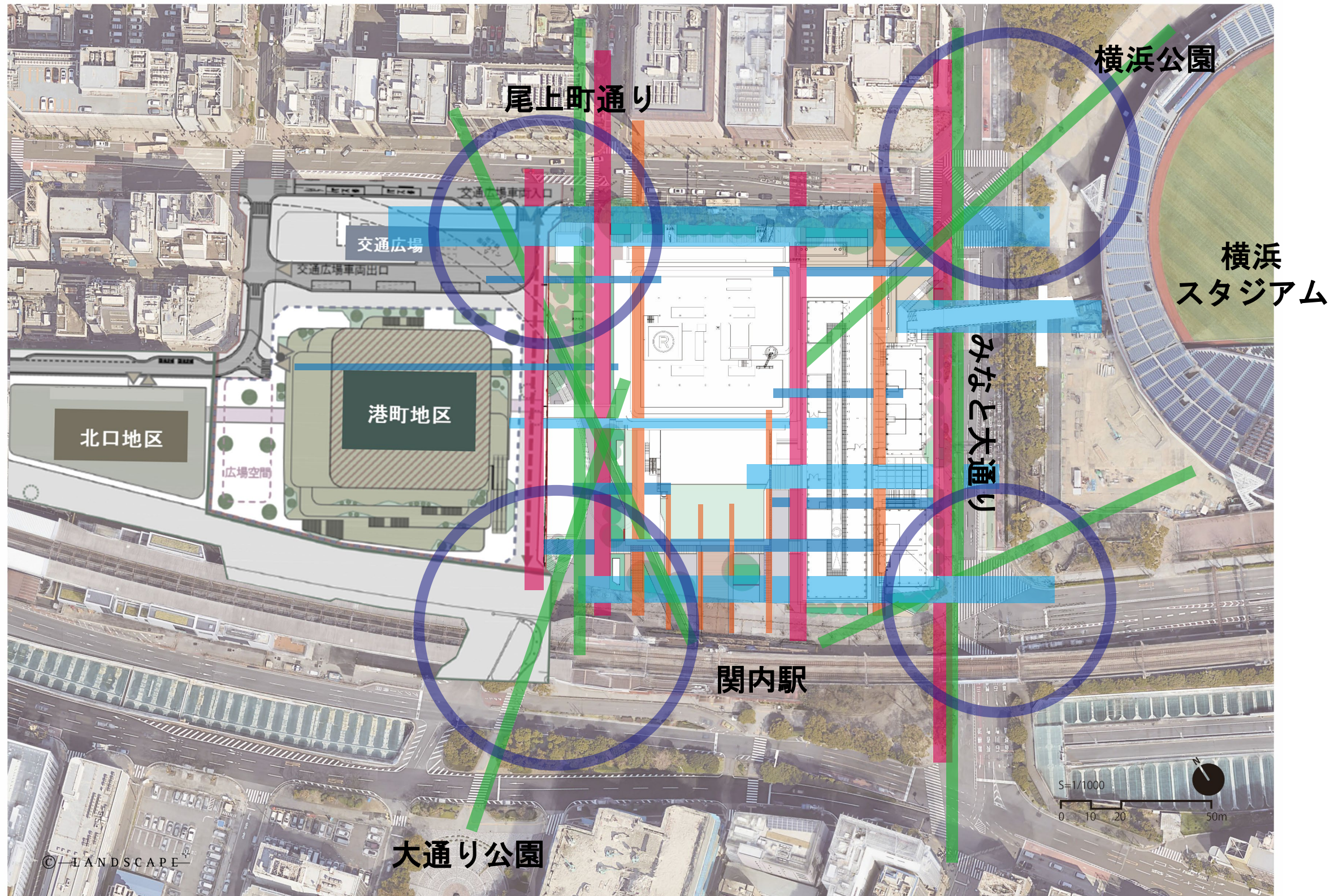
ランドスケープデザインは、モノとコトを織り合わせ、絡み合わせ、混ぜ合わせ、
ヒトに喜びと、驚きと、感動を提供するプラットフォームづくりを
ハードとソフトの両輪で創造していきます。

ランドスケープデザインの考え方

01. 横浜の歴史と未来を織り成す
02. デザインと機能を織り成す
03. 歴史ある緑と新しい緑を織り成す
04. 立体的な緑と重層的な緑を織り成す

01. 横浜の歴史と未来を織り成す

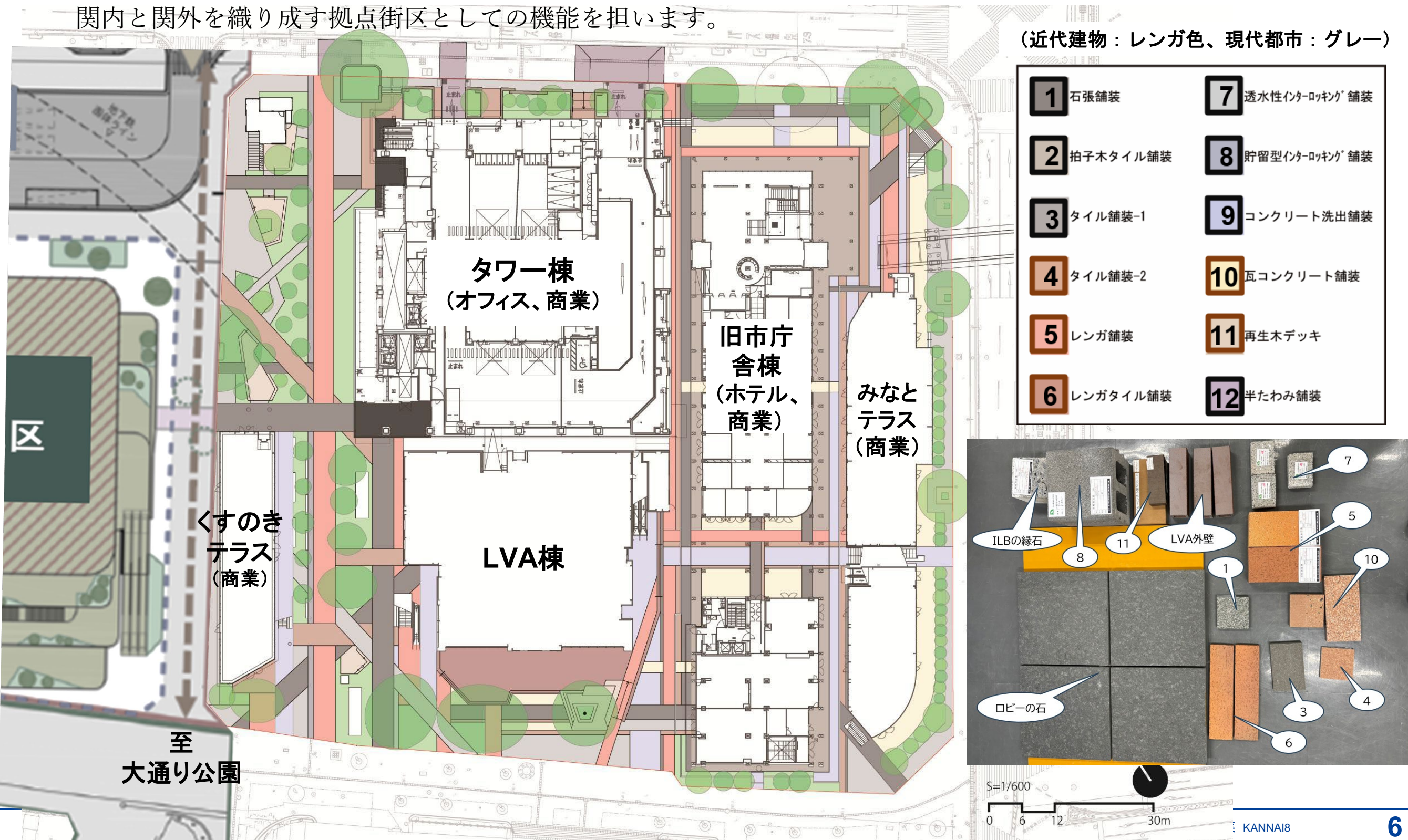
横浜の歴史を象徴する生糸をモチーフに、過去と未来を、人と街を、モノとコトを織り成す
ランドスケープデザインを考えました。



02. デザインと機能を織り成す

村野建築の配棟構成や、関内の歴史ある街区構成をランドスケープデザインに踏襲し、素材や色彩で複合施設の多様性を表現し、各施設へと分かりやすく人を導きます。

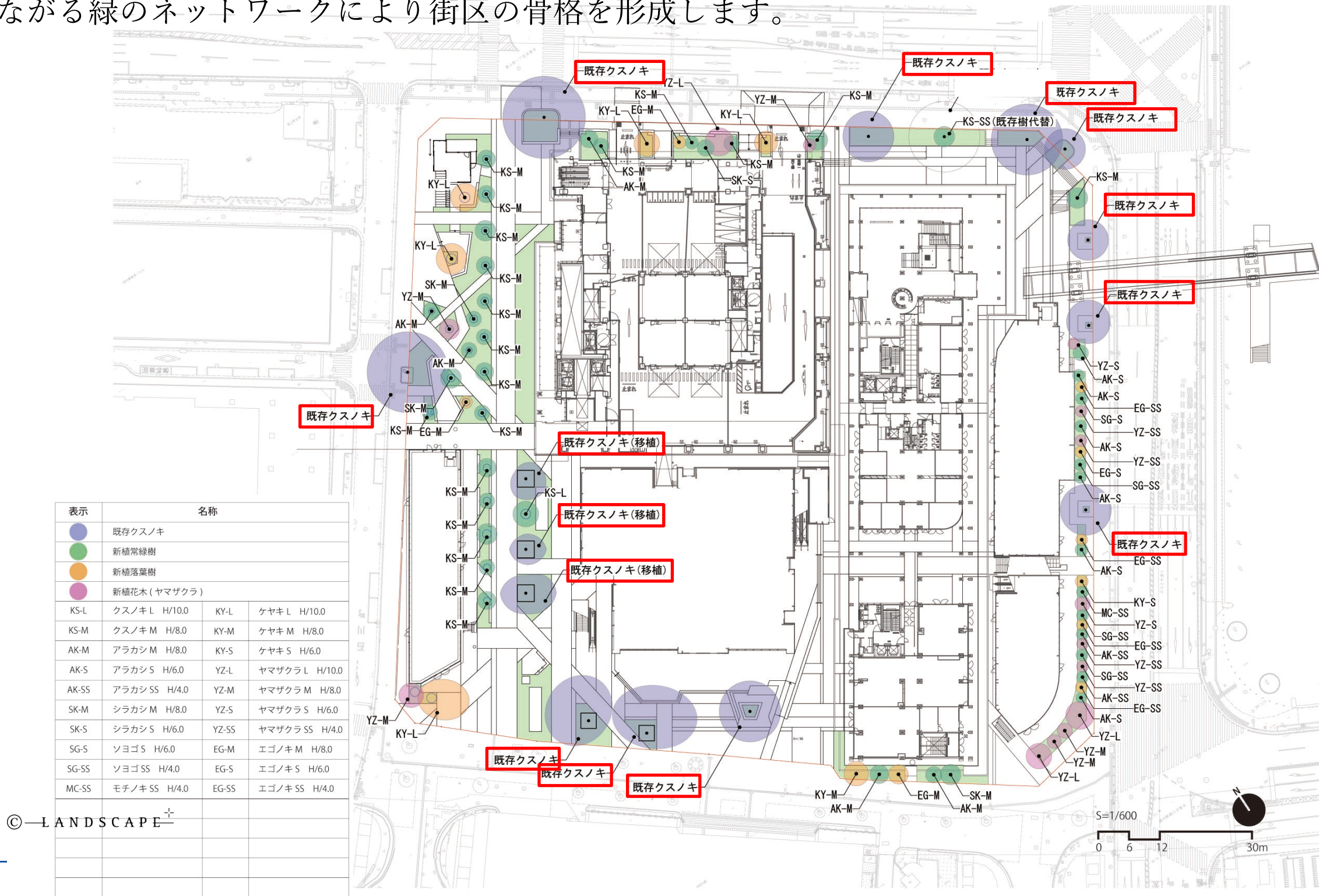
加えて、民間街区や大通り公園との将来的な連携も見据えた動線計画や施設配置とすることで、関内だけでなく、関内と関外を織り成す拠点街区としての機能を担います。



03. 歴史ある緑と新しい緑を織り成す

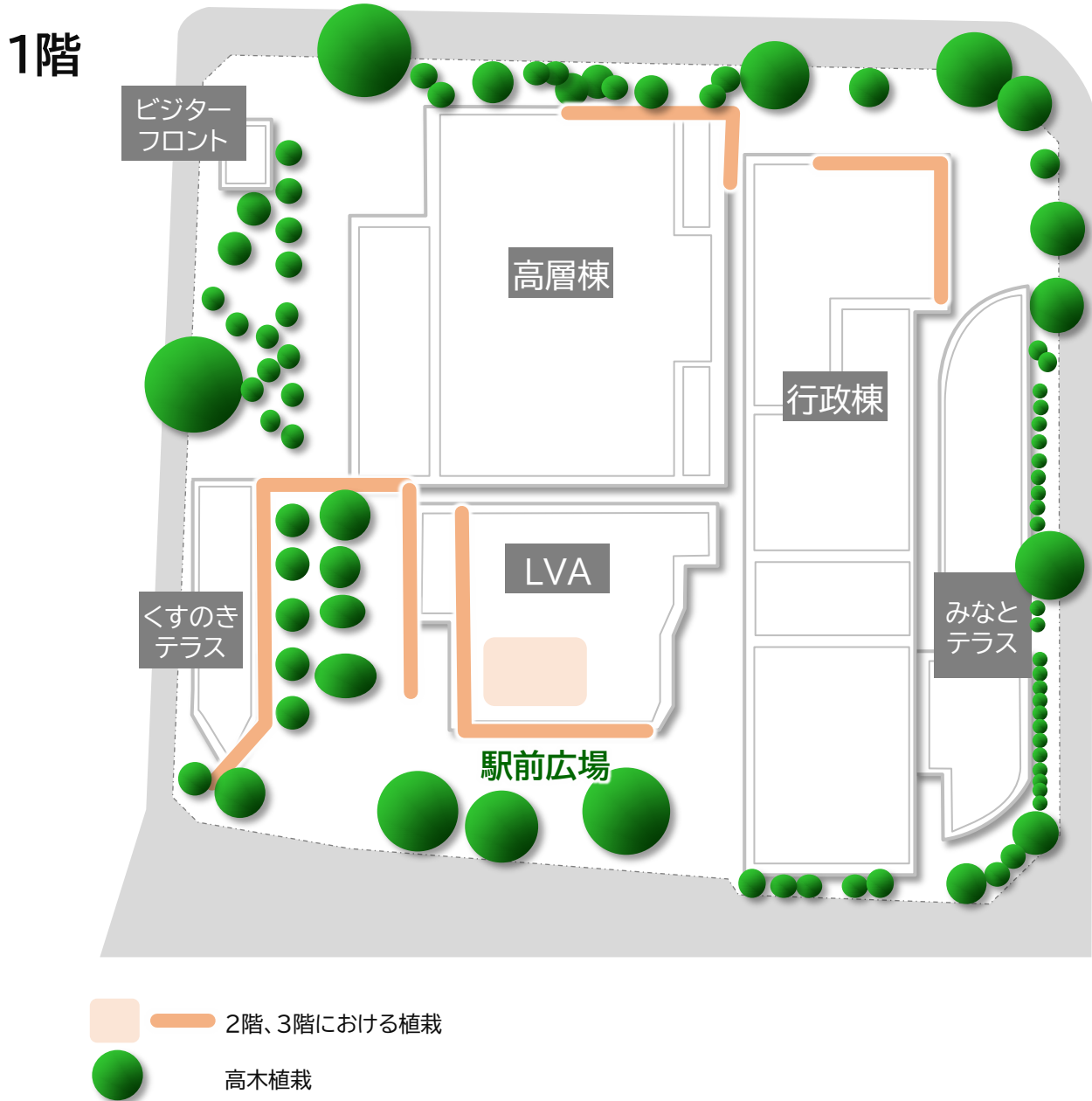
街区のゲート空間にある既存樹の中でも、特に樹形のよいクスノキを庁舎の歴史を継承する街区のシンボルとして位置づけ、大切に活用します。

1階の広場は既存樹を生かし、新植の緑は季節感のある落葉樹や花木を主体とし、横浜公園から大通り公園につながる緑のネットワークにより街区の骨格を形成します。



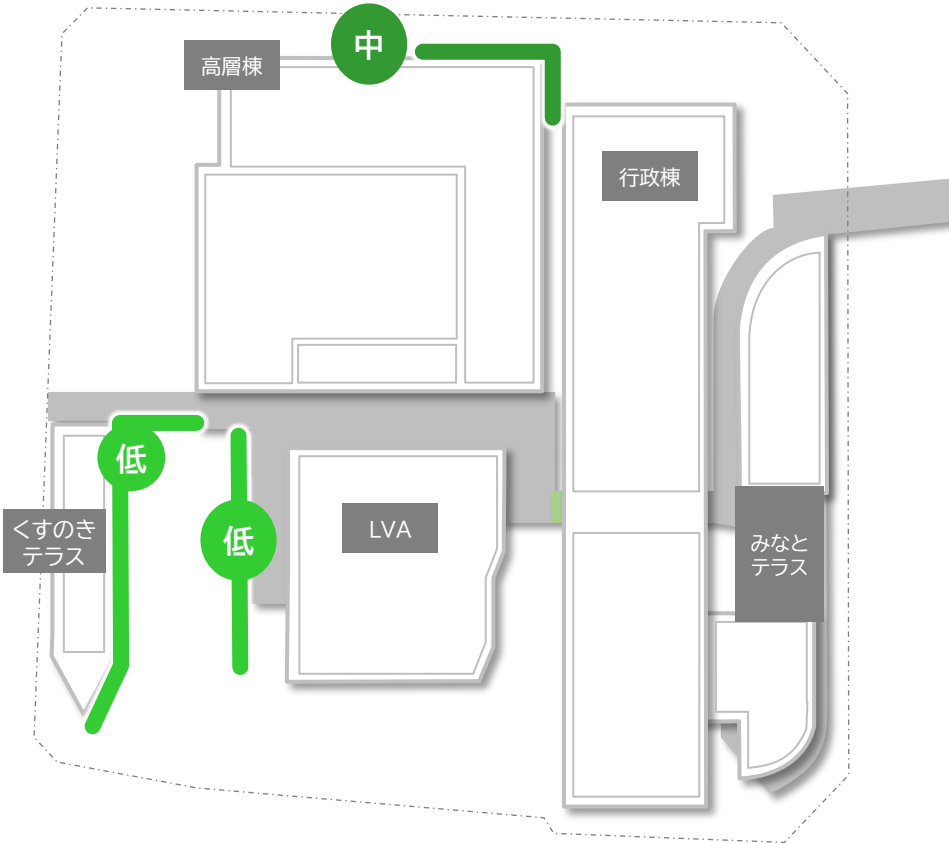
04. 立体的な緑と重層的な緑を織り成す

2階・3階の広場側や道路側など、街区周辺からよく見える低層部のエッジに中木や低木による華やかで季節感のある緑を効果的に配置し、立体的で奥行感のある街並みを形成します。

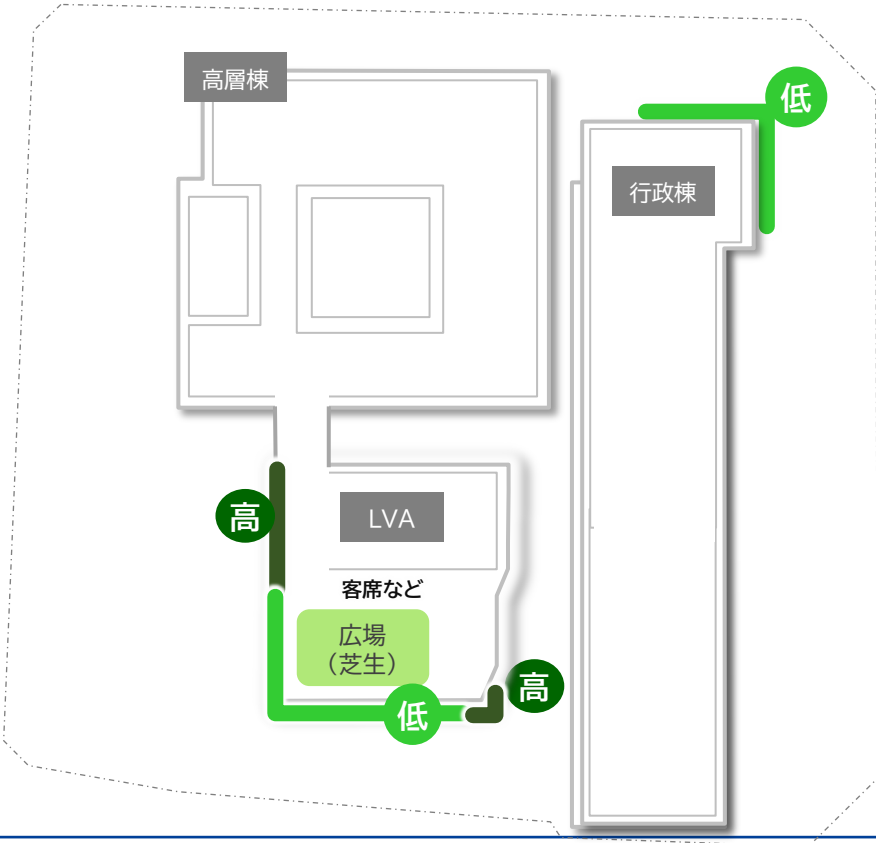


高 高タイプ:高さ4.0m程度 中 中タイプ:高さ2.5m程度 低 低タイプ:高さ0.6m程度

2階



3階



目次

①. ランドスケープの考え方・全体像	3~8
--------------------	-----

②. 個々の空間におけるデザインのあり方	10~20
----------------------	-------

(1) くすのきモールまわり

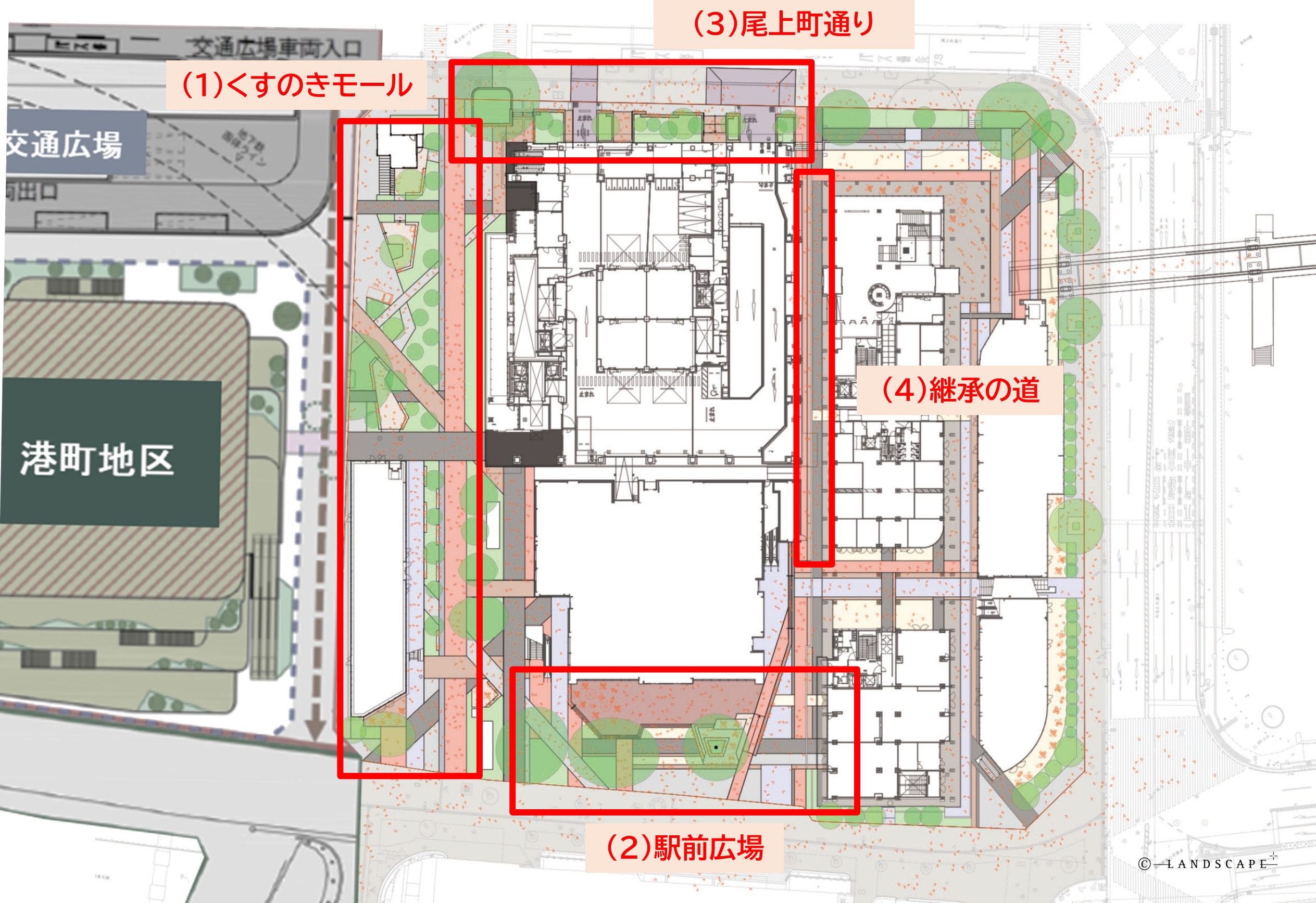
(2) 駅前広場まわり

(3) 尾上町通りまわり

(4) 継承の道まわり

③. 広場のマネジメント・使い方	22~23
------------------	-------

② 個々の空間におけるデザインのあり方



© LANDSCAPE

②－(1) くすのきモールまわり

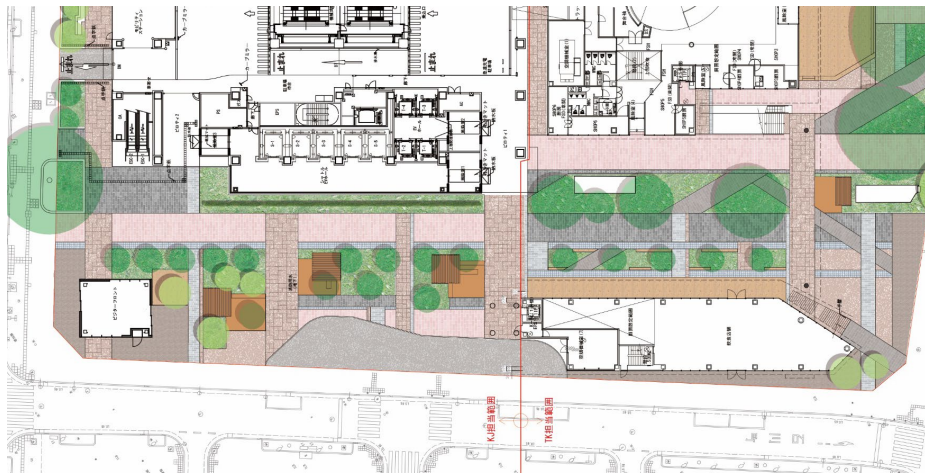
指摘事項

- くすのき広場からのつながりが継承されているような表現があってもいいのでは
- 尾上町側については隣に交通広場等もできたりして、その間の広場の在り方は交通広場等を踏まえて広場のつくり方や植栽の配置を検討すること

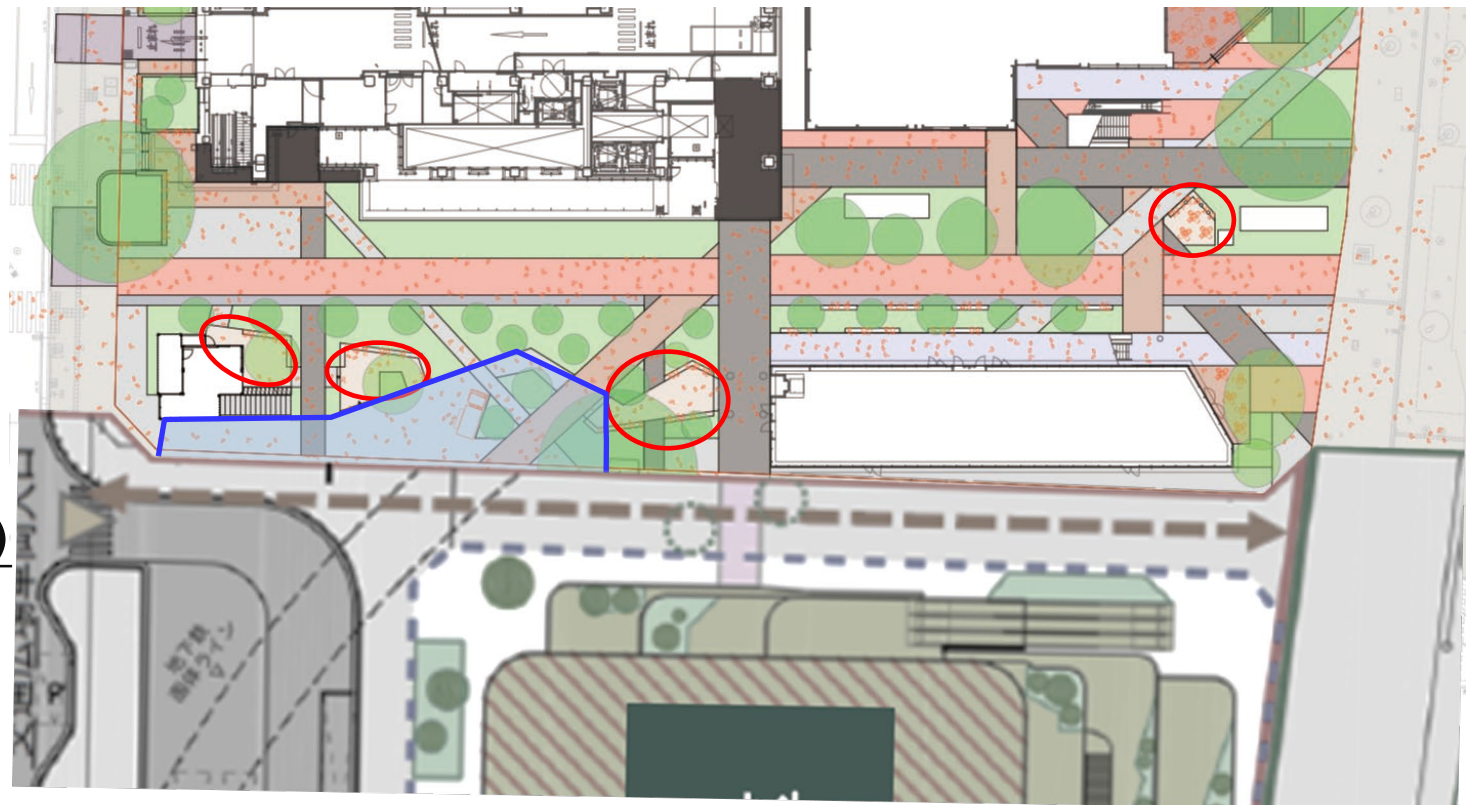
対応事項

- くすのきモールの一部にデッキやベンチ等を設け、ここを通る人々の憩いの場として計画
- 市道山下町7号線に面した広場状空間を設置

①過去検討図面(令和3年度時点)

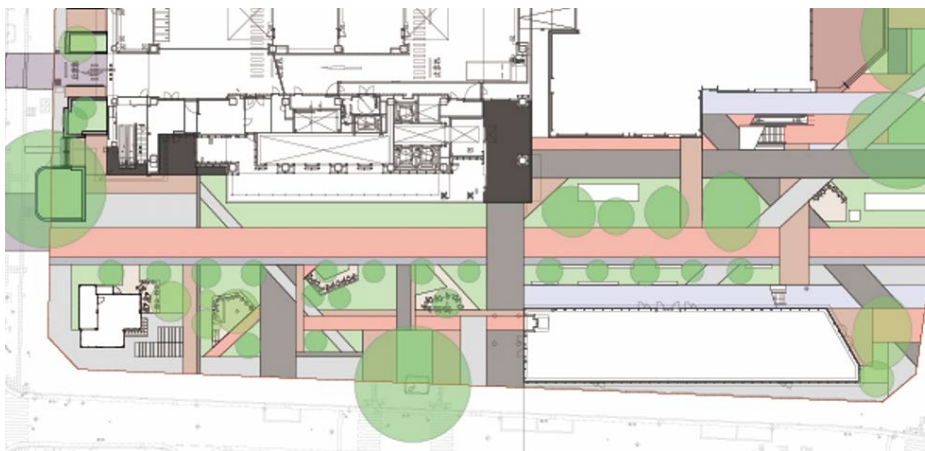


今回図面(指摘事項に対応)



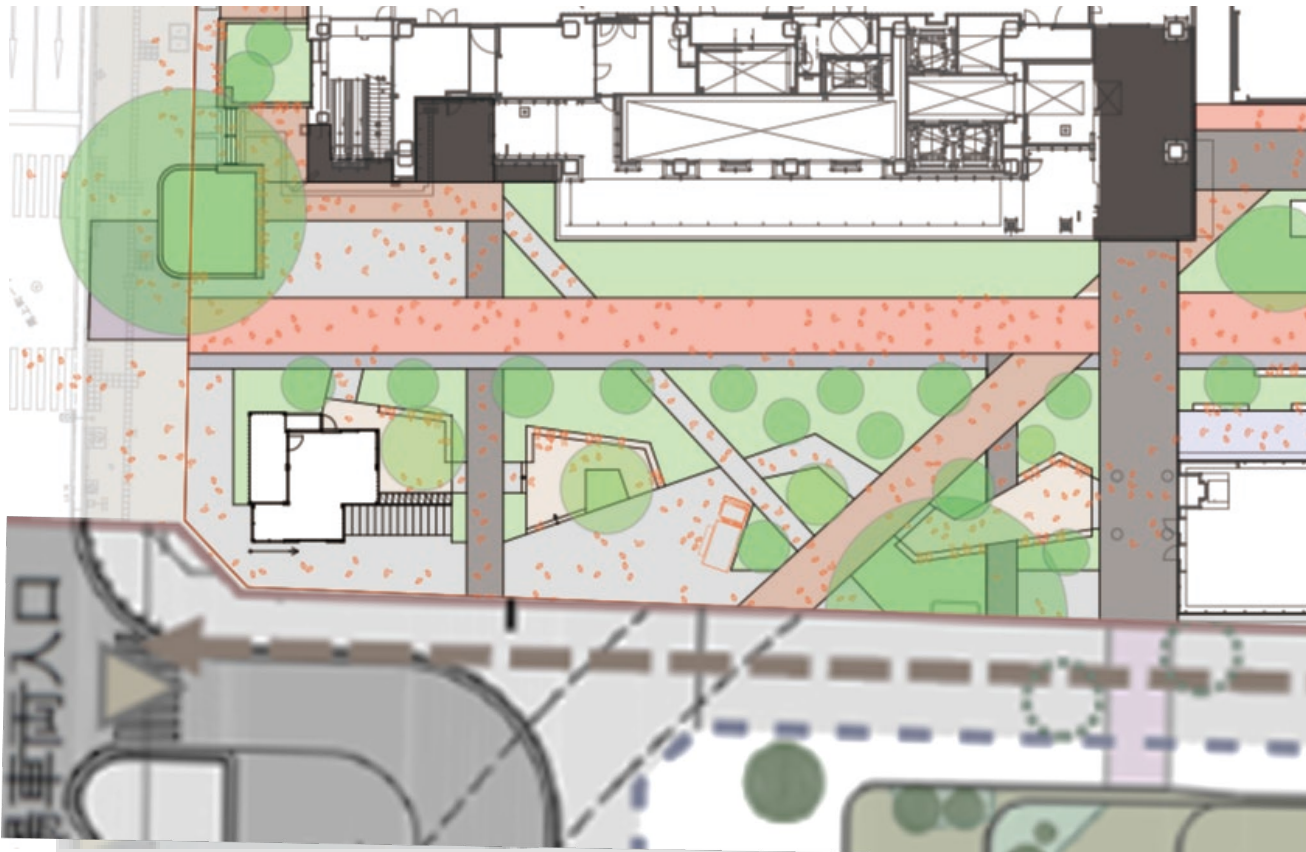
- …デッキ・ベンチの設置場所
- …広場状空間((仮称)くすのきモール広場)

②過去検討図面(デッキ・ベンチの詳細検討資料)



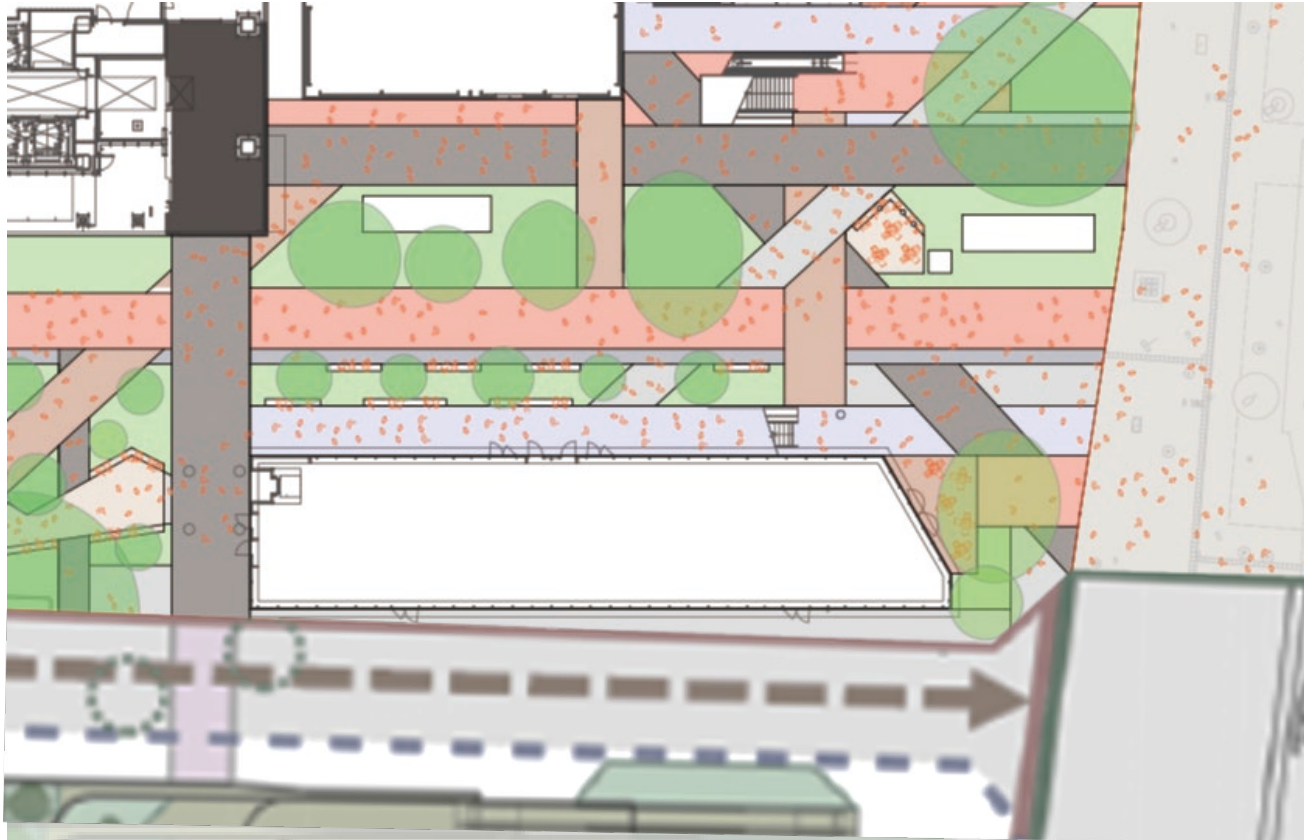
②－(1) くすのきモールまわり

緑陰空間に点在する居心地の良い滞留空間



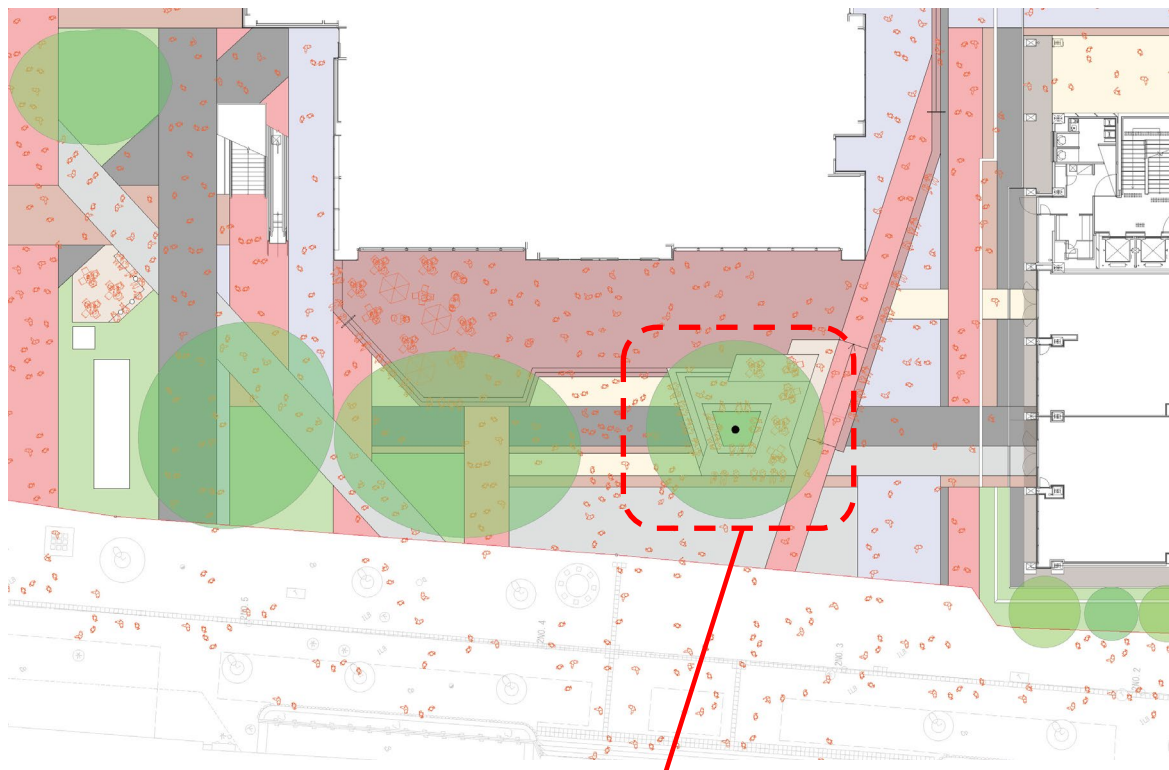
②－(1) くすのきモールまわり

愛市の鐘と一体となった滞留空間



②－(2) 駅前広場まわり

関内駅前にふさわしい、様々なアクティビティを生み出すしつらえ



樹木の幹元にベンチ状の立上りを設け転落防止と樹木下の滞留空間を創出



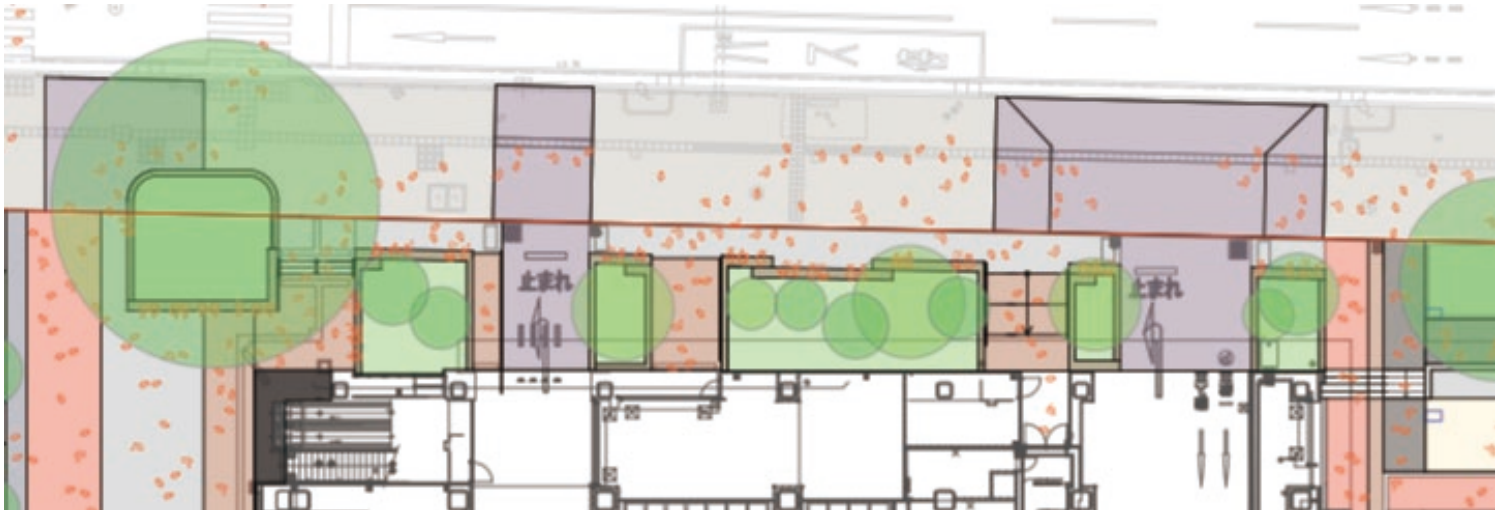
②－(3) 尾上町通りまわり

指摘事項	●緑を建物側に寄せて、歩道と一体となった広場状空間を作れた。 一方、緑の幅が均一で単調になっているので、メリハリをつけて、少し休憩できるようなところの工夫もやっていくべき。
対応事項	●尾上町通側の植栽帯について、高さや壁面ラインにリズムを持たせ、歩行者の関心を得たり休憩場所として想起できるようなデザインに変更した

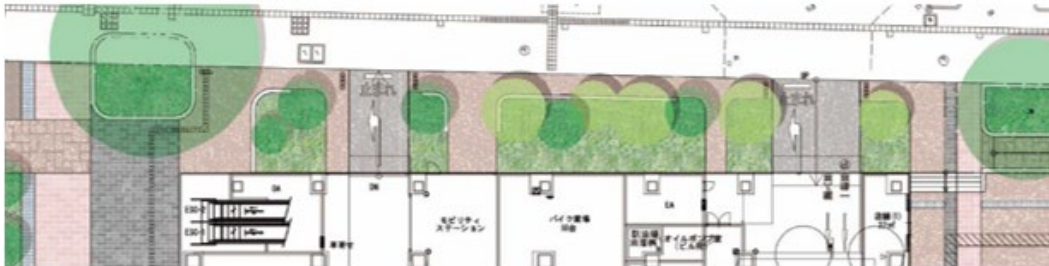
①過去検討図面(令和3年度時点)



今回図面(指摘事項に対応)



②過去検討図面(27回 都市美資料)



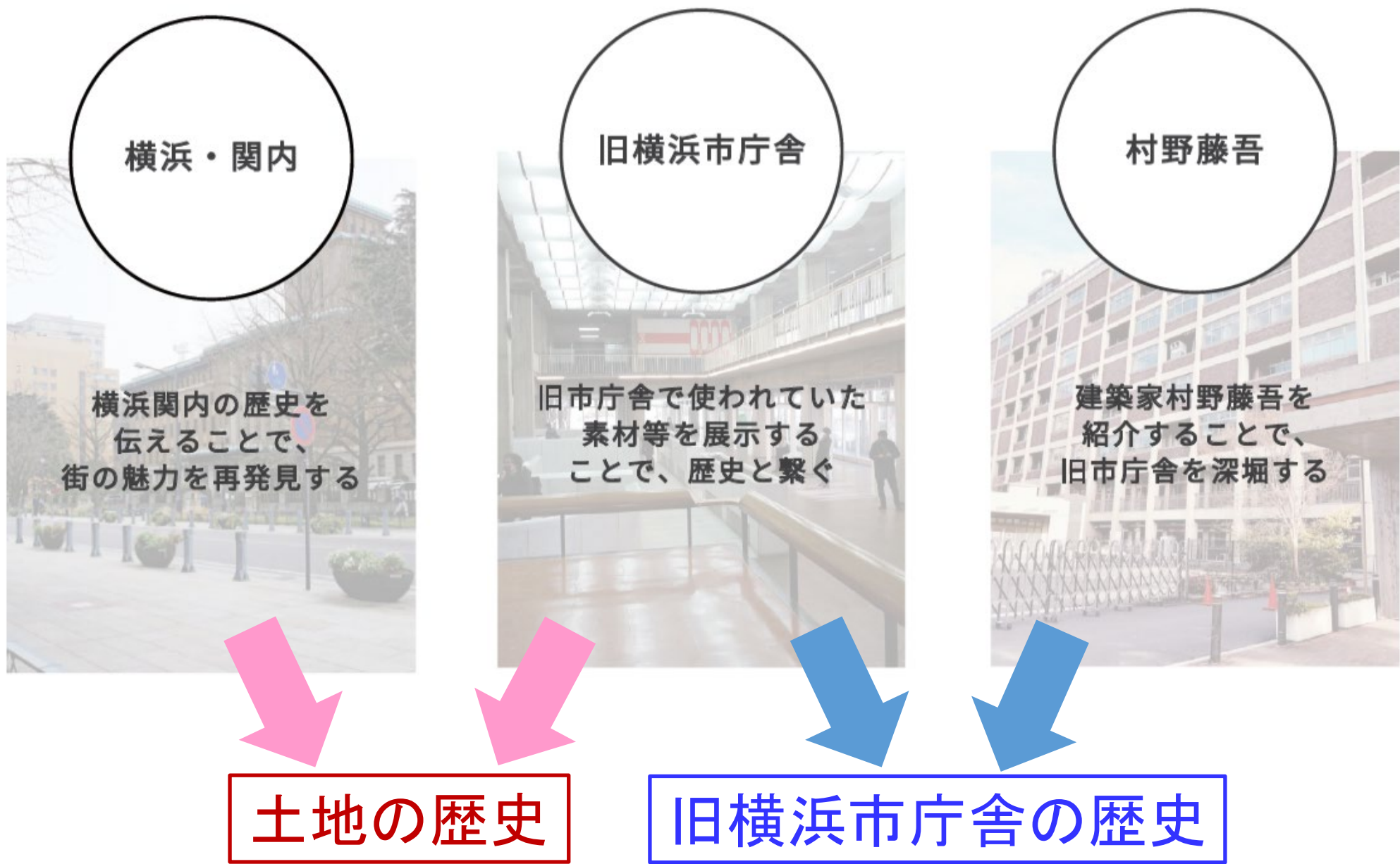
②－(3) 尾上町通りまわり

通りに面し段差等で表情をつけ、歩行者の関心を引くしつらえ



②ー(4) 継承の道まわり : コンセプト

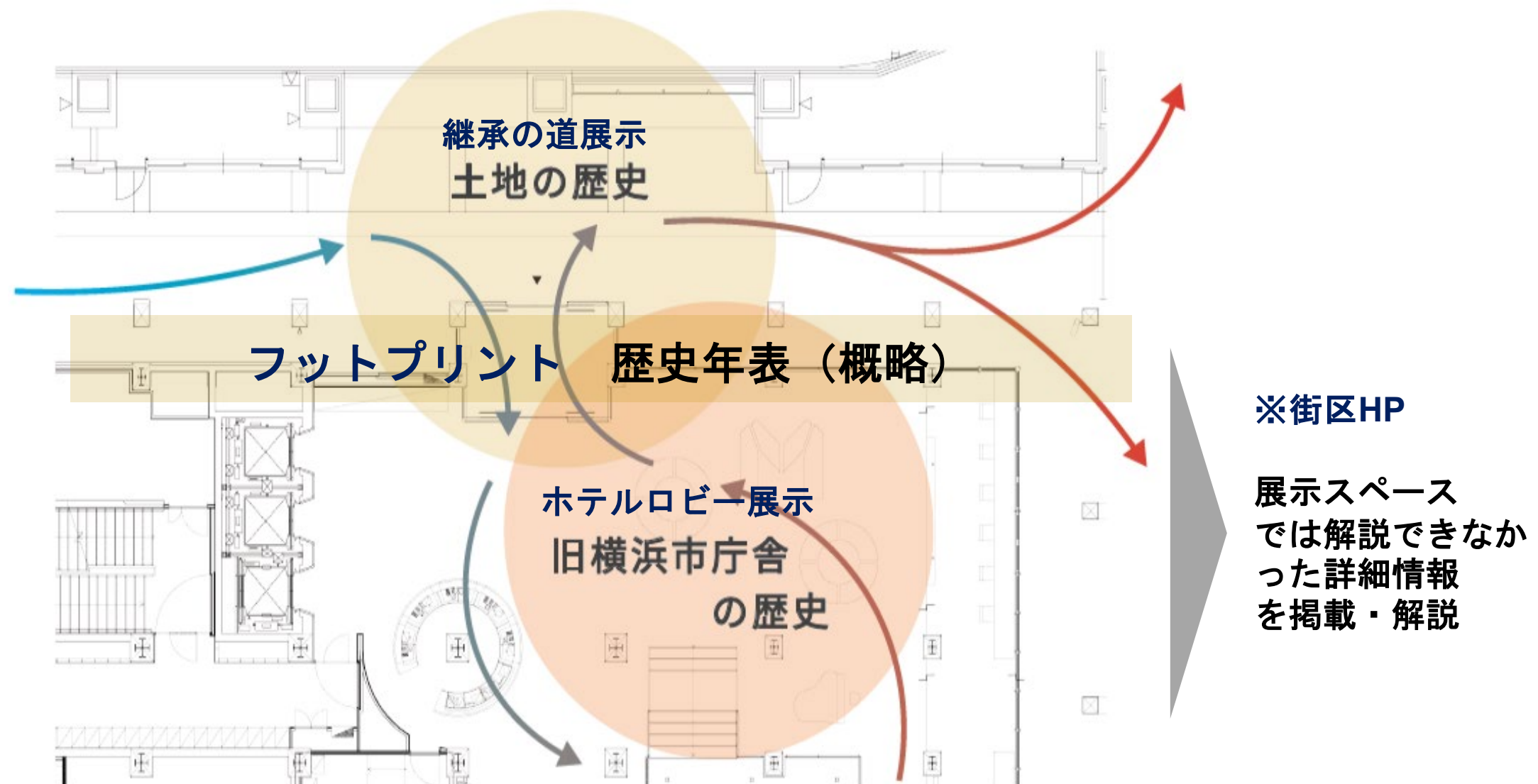
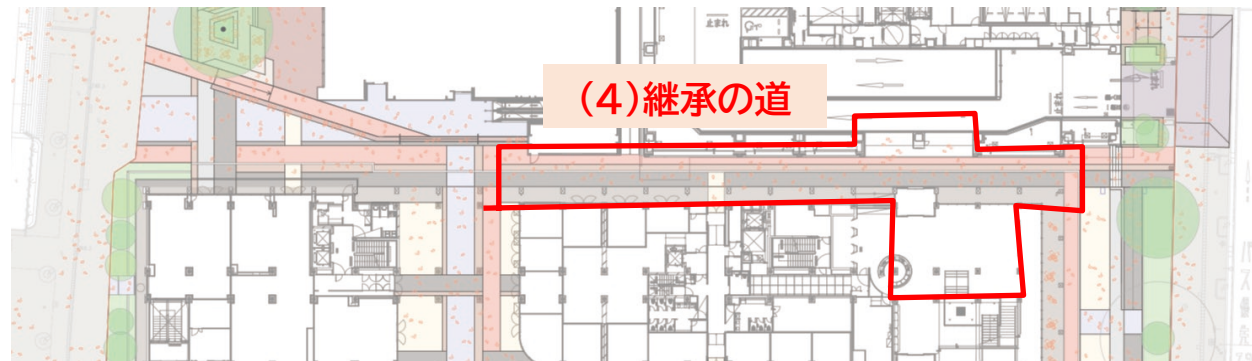
指摘事項	●継承するものは何かという大きなストーリー、コンテンツはあるが、歩いているときに自ずと 感じられるようなオブジェクトや床面の、歩くところそのもののデザイン議論をしてはどうか
対応事項	●2か所の展示スペース設置と合わせ、舗装デザインやフットプリントで歴史を表現する



「土地の歴史」と「旧横浜市庁舎の歴史」の両方の視点から関内の歴史を知ってもらおう。

②－(4) 継承の道まわり : 各展示コンテンツの連動

“継承の道展示＋フットプリント”では、「土地の歴史」、
“ホテルロビー展示”では、「旧横浜市庁舎の歴史」を表現。



②－(4) 継承の道まわり : 展示スペースしつらえ

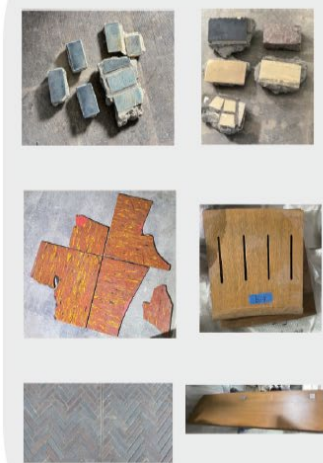
保存・継承したプロダクト・マテリアル・ヒストリックの実物を展示。

・ 継承したプロダクト・マテリアル・ヒストリック

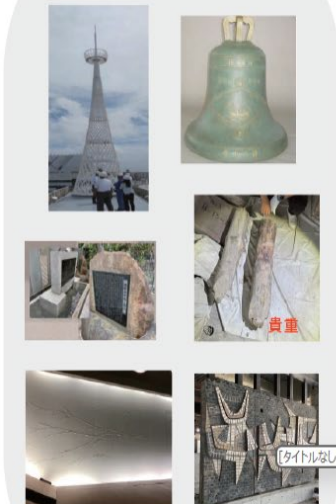
プロダクト



マテリアル



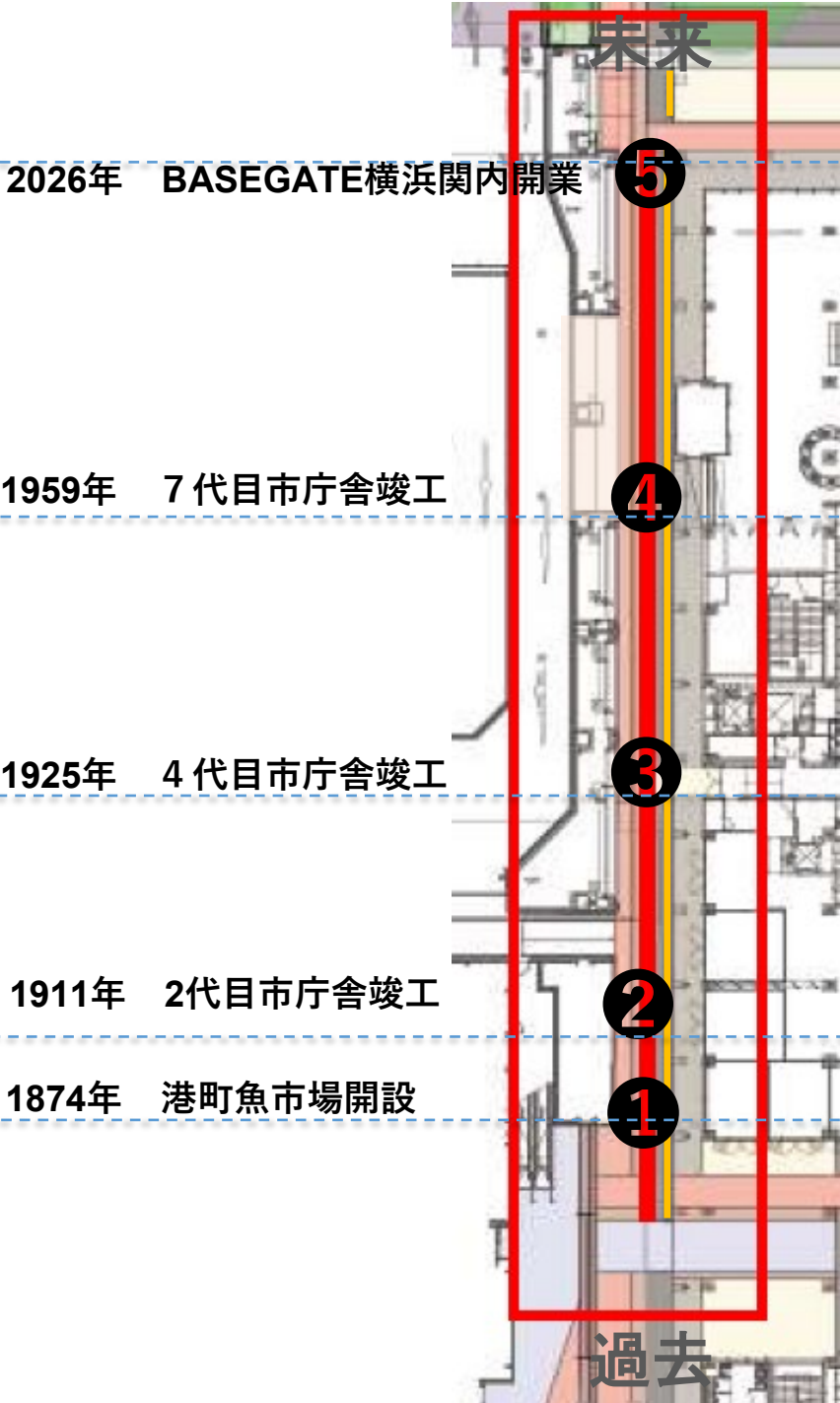
ヒストリック



②－(4) 継承の道まわり : フットプリント (歴史年表)

街区来街者に関内を回遊して欲しいという思いから、
緑の軸線上に実在する場所・建物の歴史を年表化してプリント。

旧横浜市庁舎の歴史

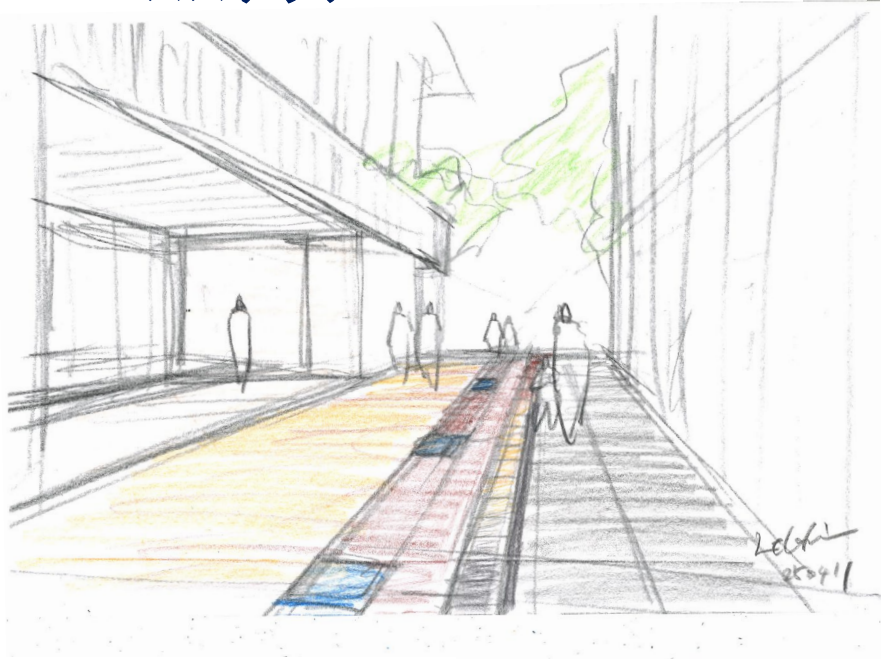


土地の歴史

※赤字は時代の節目なので目立させる
※色は、同じ事柄を（過去・未来）で連動
※点線は補助線。刻印しない。

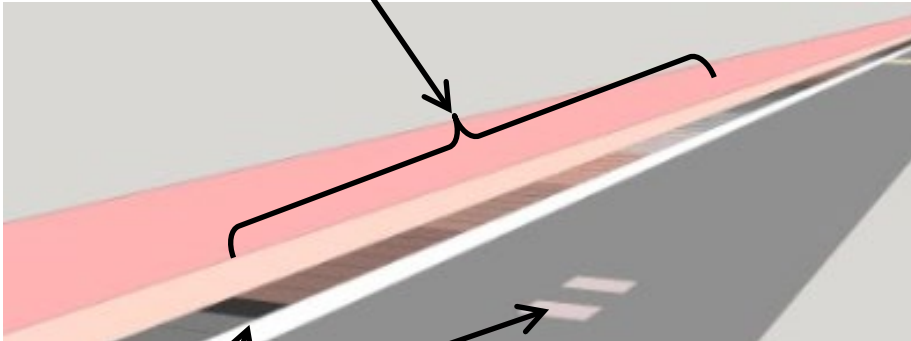
- 2020年 8代目市庁舎竣工
- 2009年 象の鼻パーク開園
- 2002年 横浜赤レンガ倉庫再整備
日本大通り再整備
- 1978年 横浜スタジアム竣工
大通り公園開園
- 1945年 横浜大空襲
- 1934年 横浜税関本関庁舎（クイーン）竣工
- 1930年 山下公園開園
- 1928年 神奈川県庁本庁舎（キング）竣工
- 1923年 関東大震災
- 1917年 横浜市開港記念会館（ジャック）竣工
- 1913年 横浜赤レンガ倉庫1号館竣工
- 1911年 横浜赤レンガ倉庫2号館竣工
- 1876年 彼我公園（横浜公園）開園
- 1870年 日本大通り完成
- 1859年 横浜開港
- 1856年 太田屋新田

・パーススケッチ



・表現方法のイメージ

時代の流れを表現するタイルのグラデーション
で舗装にリズムを持たせる
（近代建物：レンガ色 → 現代都市：グレー）



2026
横浜関内開業

土地や市庁舎の歴史、
年号をタイル表面加工
で表示

目次

①. ランドスケープの考え方・全体像	3~8
--------------------	-----

②. 個々の空間におけるデザインのあり方	10~20
----------------------	-------

(1) くすのきモールまわり

(2) 駅前広場まわり

(3) 尾上町通りまわり

(4) 継承の道まわり

③. 広場のマネジメント・使い方	22~23
------------------	-------

③ 広場のマネジメント・使い方 : 広場の利活用イメージ

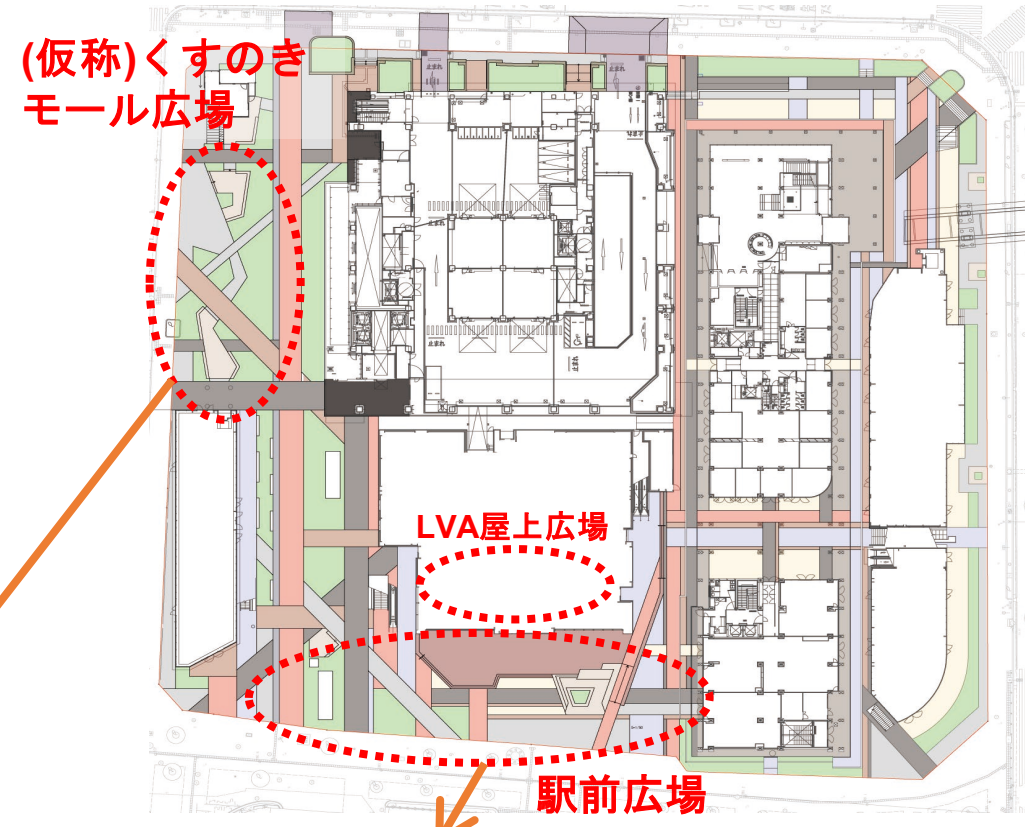
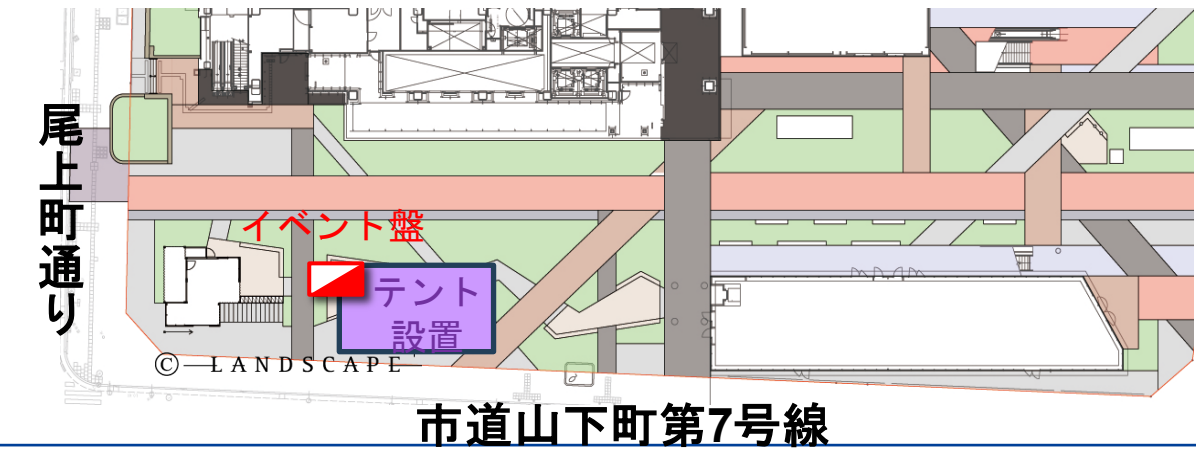
- 指摘事項**
 - 日常的な滞留での使用以外に、年間の中でこの広場の使い方が変わるのであれば検討するとよい。
- 対応事項**
 - 事業者や地域、第三者のイベント等での利用を想定し、テント設置や電源供給、給水などの機能を追加

■広場の利活用イメージ

地区内事業者 利用イメージ	・LVA連携イベント ・飲食テナント連携 等
地域関連 利用イメージ	・大通り公園と連携したイベント ・地域イベントのサブ会場 等
第三者 利用イメージ	・地方物産展等の商業催事 ・民間企業の商品・サービスのキャンペーン 等

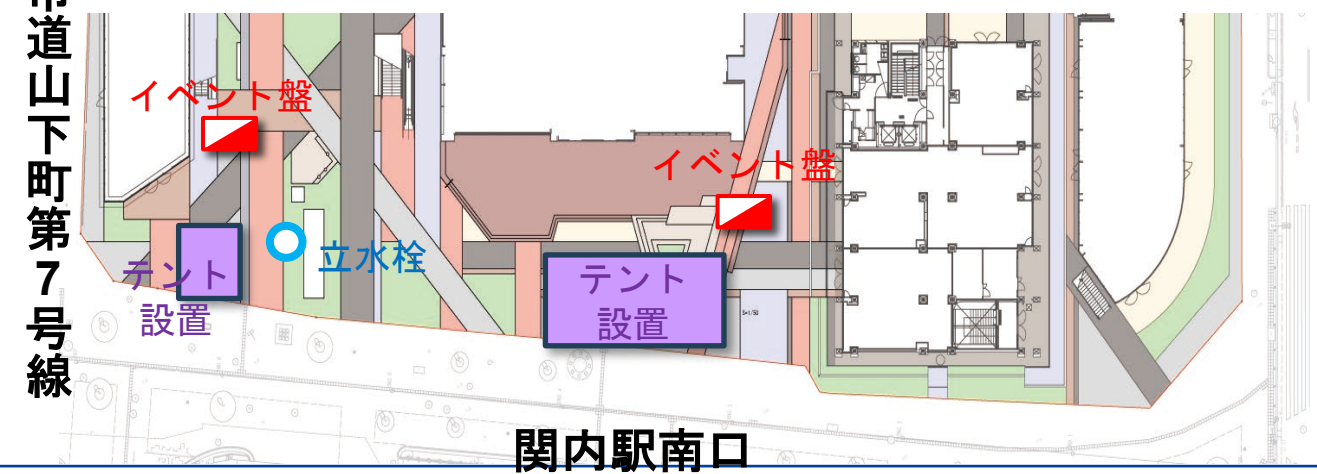
■(仮称)くすのきモール広場

- ・テント設置、電源供給、ベンチ
- ・隣接する民間街区側に開けており、将来歩行者専用道路化が計画されている市道山下町第7号線と連携したイベント開催等が可能となる



■駅前広場

- ・給水、テント設置、電源供給、サイネージを設置
- ・関内の玄関口でもある駅前の賑わい形成に寄与するイベントが可能となる



③ 広場のマネジメント・使い方：体制・役割

指摘事項

●広場を誰がどうやってマネジメントしていくのかや運営管理の面を使い方を含め整理する必要がある。

対応事項

- デジサイと合わせて、イベント向けの広報や運営調整を行うC社を設置する
- 同時に、旧市庁舎街区事業者による広報連携、近隣のMICE・広場管理事業者との広報連携を通じて、イベントへのリーチを拡大する

